

# イスラ ムにおける非ムスリムの 利 (4/13) : 人 としての尊 を保つ 利

:

明:非ムスリムのための人としての尊 を保つ 利、またその 史的先例と原 。

目:[事代におけるイスラ ムとノンムスリム](#)

より: IslamReligion.com (サ リフ アル=ア イド博士による )

日12 Nov 2012

集日 12 Nov 2012

イスラ ムが人 の尊 に重きを置くことが分かる の例として、初期イスラ ムのカリフが非ムスリムの尊 を保 した、次の有名な逸 があります。アムル ブン アル=ア スがエジプトの 官だったとき、彼の息子の一人が「我は 人の息子である! 」と豪 し、コプト教徒を鞭打ちました。そのコプト教徒ははるばるマディ ナに住んでいたカリフのウマル ブン アル=ハッタ ブを れ、その件について苦情を述べました。以下は、 言者の生前に彼の身の回りの世 をしていたアナス ブン マ リクによる 承です。

“我々がウマル ブン アル=ハッタ ブと座っていたとき、エジプト人が れてこう述べた。「信仰者の よ、私は 方のもとに避 を求めてやってきました。」それでウマルが彼の について ねると、彼はそれに答えてこう述べた。「アムルは所有していた をエジプトでは放し いにしていました。ある日、私が自分のラバに って人々の集まりを通りがかると、彼らは私の方を ていましたが、アムルの息子ムハンマドが立ち上がって私に向かって来るなりこう言いました。『カアバの主に誓って、それは私のラバである! 』私はこう答えました。『カアバの主に誓って、このラバは私のものです! 』彼は私を鞭で打ち始め、こう言ったのです。『お前にそれをくれても良いが、それはなぜなら我が 人の息子だからである! (つまり、自分がより 大であることを示す意味) 』この事件はアムルの知るところとなりましたが、 方の耳に入ることを恐れた彼は、私を投 しました。私は脱出して、 方の元にこうしてやって来たのです。」”

アナスは けます。

“神に誓って、ウマルによる唯一の反 は、そのエジプト人に座るよう告げたことだった。そしてウマルはアムルに次の手 を いた。「この手 があなたに届いたら、そなたの息子ムハンマドを れてくるのだ。」そして彼は例のエジプト人にアムルが来るまでマディナに留まるよう告げた。アムルが手 を受け取ると、彼は息子と呼びこ う ねた。「お前は何か罪を犯したのか？」息子が否定したのでアムルは言った。「では何故ウマルはお前について手 を いたのだ？」彼らは二人でウマルの元へ行くことにした。”

アナスは更に けます。

“神に誓って、我々がウマルと共に座っていると、一般人の衣服を身に付けたアムルが到着した。ウマルが彼の息子はどこかと 回すと、父 の背 に（目立たないように）立っているのを つけた。ウマルは ねた。「例のエジプト人はどこか？」彼は答えた。

「ここです！」ウマルは彼に言った。「この鞭を取り、 人の息子を打つのだ。」それで彼はそれを手に取り、ウマルが何度も「 人の息子を打つのだ。」と り返す中、力 く打ち けた。我々は彼がもう十分に打ったと 足するまで彼を止めなかった。するとウマルは言った。「では、これを取って私の を打つのだ。今回これが起きたのは指 を行き届かせていなかった私の 任にもある。」エジプト人は答えた。「私は が みました。私の怒りも静まりました。」ウマルは彼に言った。「もしお前が私を打ったとしても、お前がそう望むまで私はお前を止めなかつただろう。さてアムルよ、お前に してはいつから人々を奴 としたのだ？

彼らは自由民として生まれたのだぞ。」アムルは りながらこう言った。「私はそのことを知らなかったのです。」それでウマルはエジプト人に向かってこう告げた。「行くが良い。 きあれ。もしお前に何か起きたなら、私に手 を くが良い。」11”

これが、カリフとして 出されたときにまず「私が 利を 属させることにより、弱者は 者となろう。そして私が不当な 利を剥 することにより、 者は弱者となろう。」と言ったウマルの生き だったのです。虐げられた人々の社会的地位にも わらず、彼らに する公正さ、そして抑 者の にも わらず、彼らに する断固とした 度により、 史は彼を公正な 治者として したのです。

「この逸の真とは、人々がイスラムの治下において、いかに人性と尊について熟知していたかということにある。不正な一打であれ非され嫌されていたのだ。ビザンチン帝国の代においては、この逸のものと似した多くの不正が告されていたが、一人としてそれを正そうとはしなかったのである。しかし我々は、イスラム国家による保と苦情のき入れを信じて、自らの尊と利を求めエジプトからマディナへの旅をもわなかった一人の被抑者の例から、当の公正な子を垣ることが出来るのである。」

---

#### Footnotes:

1

Tantawi, Ali, *'The History Of Umar.'* p. 155-156

2

Qaradawi, Yusuf, 'Ghayr al-Muslimeen fil-Mujtama' al-Islami' p. 30-31

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/378>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。